

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **101** 号

平成29年 4・5・6月



重要文化財 阿彌陀如来立像 (奈良・東大寺)

特別展

快慶

日本人を魅了した
仏のかたち

4月8日(土)～6月4日(日)
東・西新館

特別展
(予告)

源信

地獄・極楽への扉

7月15日(土)～9月3日(日)
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催
青銅器館

特別展

快慶

日本人を魅了した仏のかたち

4月8日(土)～6月4日(日)



●僧形八幡神坐像 快慶作 奈良・東大寺



◎不動明王坐像 快慶作 京都・正壽院



◎弥勒菩薩坐像 快慶作 京都・醍醐寺(4月25日～6月4日展示)

快慶(？～一二二七以前)は、わが国を代表する仏師のひとりであり、鎌倉彫刻様式の完成に重要な役割を果たした人物として運慶と並び称されてきました。快慶には確証ある遺品が際立って多く、鎌倉時代初頭の造像界の動向を具体的に知るうえで不可欠な存在である一方、出自や工房など、その人物像には不明な点が少なくありません。

はじめ「巧匠丸阿弥陀仏」と称したことからもわかるように、快慶は熱心な阿弥陀信仰者として造仏に臨んでいたことも見逃せません。彼が生涯をかけて追求した親しみやすさと格調の高さを兼ねそなえた阿弥陀如来立像の姿は、来迎形阿弥陀の一典型としてながく受け継がれ、こんにち快慶の阿弥陀仏号にちなんで「安阿弥様」の名で親しまれています。

本展は、快慶の代表的な作品を一堂に集めて、わが国の仏教美術史上に残した偉大な足跡をたどる試みです。さらに、快慶作品の成立と密接に関わる絵画や、高僧たちとの交渉を伝える史料をあわせて展示することにより、いまだ多くの謎につつまれた快慶の実像に迫ります。



◎執金剛神立像 快慶作 和歌山・金剛峯寺



◎阿弥陀如来坐像 快慶作 広島・耕三寺

特別展(予告)

1000年忌特別展

源信

地獄・極楽への扉

7月15日(土)～9月3日(日)

恵心僧都源信は、日本人が持つ地獄や極楽世界のイメージの源を示した人です。奈良の当麻で生まれ、比叡山で修行を積んだ源信は、膨大な経典の記述を踏まえて『往生要集』という書物を作り、一般の人々にもわかりやすいように、具体的な死後の世界のありさまを記しました。源信の編著書は同時代のみならず後世の極楽浄土信仰へ多大な影響を与えています。地獄絵を含む六道絵や阿弥陀来迎図といった浄土信仰に関わるさまざまな造形の成立も、源信抜きに語り得ません。

この展覧会では没後1000年を迎えた名僧源信の足跡をたどるとともに、その影響を受けて作られた数々の名品によって、豊饒な死後の世界へのイメージを体験していただきます。



恵心僧都源信像 滋賀・聖衆来迎寺

中国の鏡箱

当館学芸部研究員 田澤 梓

海外に足を運び文化財を目にすると、大いに刺激を受ける。昨年度、メトロポリタン東洋美術研究センターによる研究助成を得て、昨冬に中国・江南地域と台湾・台北市に赴く機会に恵まれた。唐代の鏡を調査することが主な目的であったが、思いがけず鏡を納めるための箱、鏡箱に心惹かれた。

中国・浙江省博物館（浙江省杭州市）では彫漆による柄鏡用の箱【写真1】、また南京博物院（江蘇省南京市）では陶製の鏡箱があり驚いた。白地黒花文の磁州窯系の品で、蓋に「鏡盒」と記されその用途が分かる。台湾・台北故宫博物院では清代皇帝コレクションの鏡の特集展示があり、乾隆帝が作らせた鏡箱が展示



【写真1】 牡丹文鏡箱 中国・浙江省博物館
漆を幾層も塗り重ねたところに文様を彫り込む彫漆という技法で、牡丹文があしらわれている。浙江省紹興市東湖出土。
(陳浩主編『浙江省博物館』長征出版社、2013年より転載)

されていた。冊子状の箱で、表紙は錦で飾られ、見返は花卉や山水図、納められる鏡の写し絵が貼り付けられている。鏡を箱に入れ、黄色の裂のクツションで覆い、蟠螭文などの彫刻を施した木製の内蓋をかぶせる。書画・木工・染織・装潢の技術が集まった精巧な鏡箱である。

ところで正倉院に伝わる鏡箱で身底の中央に孔があるものは、鏡面を上にして納め、蓋を開けるだけで顔を映すことができるように用いたという説がある（内藤栄「鏡箱の指孔」

『第五十六回 正倉院展』宝物寸描、平成十六年）。先述した柄鏡を納める鏡箱も、そのように用いていたかもしれない。牡丹文が施された蓋を開けると、円形部分は底面が露出するが、柄にあたる部分のみ内板が取り付けられているようで、ここを握り使用していたことがうかがえる。しかし同じ宋代の作と考えられる陶製の鏡箱は、持ち上げるのには不便に思われ、おそらく鏡を箱に入れたままでは使用しなかっただろう。

杭州と南京を案内してくれた方に、帰りの新幹線の中でおみやげをいただいた。蓋をスライドすると鏡が出てくるプラスチック製のキーホルダーである。小さな鏡を手にして、その昔からは考えられないほど多様な鏡と鏡の入れ物があることに思い至った。水面に姿を映す水鏡にはじまった鏡は、数千年を通じて金属製が主流であったが、近代にガラス鏡が取って代わり、いまやスマートフォンを鏡の代わりに使う人もいる。形は変わるが、鏡はどの時代、どの国でも日常生活に欠かせない存在である。



【写真2】杭州東駅のプラットフォーム
中国の新幹線の停車駅はどれも巨大で圧倒された。

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

〔彫刻〕

〔第1室〕

- 大将軍神坐像 当館
- 蔵王権現立像 当館
- 地藏・龍樹菩薩坐像 当館
- 毘沙門天立像 当館
- 南無仏太子立像 当館

〔第2室〕

- 獅子 当館
- 獅子 当館
- 観音菩薩立像 文化庁
- 観音菩薩立像 本山寺
- 観音菩薩立像 細見美術財団

〔第3室〕

- 阿弥陀如来坐像 当館
- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
- 阿弥陀如来坐像 善福寺
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 個人

〔第4室〕

- 菩薩坐像 観音寺
- 侍者坐像 当館
- 天部坐像 当館
- 薬師如来坐像 見徳寺

〔第5室〕

- 文殊菩薩坐像 薬師寺
- 仏手(薬師如来立像右手) 新薬師寺
- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 悟真寺
- 如来立像 当館
- 菩薩立像 法起寺
- 菩薩半跏像 神野寺
- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 二仏並坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 観音菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 薬師如来坐像 文化庁
- 大威徳明王騎牛像 当館
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館



仏手(薬師如来像右手) 新薬師寺

〔第6室〕

- 梵天立像 秋篠寺
- 釈迦如来立像 法明寺
- 獅子 個人
- 如来三尊像 個人
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人
- 天部立像 兵庫県
- 如来立像 当館
- 阿弥陀如来坐像 欲喜寺
- 宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺
- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 如来坐像 海住山寺



象 個人

〔第7室〕

- 千手観音菩薩立像 妙法院
- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 千手観音菩薩立像 園城寺
- 十一面観音菩薩立像 元興寺

〔第8室〕

- 広目天立像 興福寺
- 增長天立像 当館
- 兜跋毘沙門天立像 当館
- 二天王立像 室生寺
- 降三世明王坐像 金剛寺



観音菩薩立像 観心寺

〔第9室〕

- 龍猛菩薩立像 泰雲院
- 地藏菩薩立像 十市町自治会
- 明星菩薩立像 弘仁寺
- 准胝観音菩薩立像 文化庁
- 地藏菩薩立像 大福寺
- 地藏菩薩立像 新薬師寺

〔第10室〕

- 不動明王立像 当館
- 愛染明王坐像 当館
- 不動明王坐像 園城寺
- 五大明王像 当館
- 不動明王立像 個人

〔第11室〕

- 十二神将立像(午神・亥神) 当館
- 四天王立像 現光寺
- 龍神像 薬師寺
- 狛犬 與喜天満神社
- 大津皇子坐像 薬師寺

〔第12室〕

- 阿弥陀如来立像(善光寺式) 善光寺
- 菩薩坐像 文化庁
- 帝釈天坐像 室生寺
- 十二神将立像(辰神・未神) 室生寺

〔第13室〕

- 如来倚像(押出仏) 当館
- 観音菩薩立像(押出仏二面) 当館
- 吉祥天倚像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 僧形立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 毘沙門天立像 当館
- 蔵王権現立像(五軀) 大峯山寺
- 破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、○＝重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

■快慶展 親子のワークショップ

「着て楽しむ!ほとけさまのファッション」

快慶展ではたくさんのほとけさまが展示されていますが、よく観るとそれぞれ衣の着方が少しずつ違ってきます。実際にほとけさまと同じように衣を着てみて、ほとけさまのファッションに込められた想いについて親子で楽しく学んでみませんか。ほとけさまのファッションが分かれば、展覧会をより楽しめるかも?

【日 時】 4月29日(土・祝)

①10:30~12:00 ②13:30~15:00

【会 場】 当館地下回廊

【講 師】 岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

【定 員】 各回10組(小学生とその保護者)

【参加費】 無料

【応募方法】

快慶展公式サイト(<http://www.ytv.co.jp/kaikei/>)にある専用の申し込みフォームから応募してください。定員に達し次第、募集は締め切ります。

【問い合わせ】 当館総務課企画推進係 TEL 0742-22-4450

※祝日を除く月~金曜日の午前9時から午後5時まで

■快慶展を100倍楽しめる 快慶仏講座・検定

快慶が造った仏像の特徴や鑑賞ポイントについてわかりやすく解説する動画を快慶展公式サイト(<http://www.ytv.co.jp/kaikei/>)にアップしています。その動画や快慶展の鑑賞によって得た知識を試せるミニ検定を、本展の会期中に2回実施します。当館内で検定の受付をし、問題用紙・解答用紙をお渡しします。解答用紙は後日、検定事務局へ郵送いただきます。採点の結果は後日、事務局から通知します。第1弾と第2弾とで異なる記念品もプレゼント!

【申し込み受付期間/解答用紙提出締め切り】

〈第1弾〉 4月11日(火)~23日(日)/5月2日(火)必着

〈第2弾〉 5月9日(火)~21日(日)/6月4日(日)必着

※第1弾と第2弾で問題は異なります。

【料 金】 700円

(1回の検定につき。当館内の検定受付で徴収します。)

【問い合わせ】 読売テレビ事業局 TEL:06-6947-2098

■仏像展巡りスタンプラリー

次の3会場を巡り、すべてのスタンプを集めた方に抽選で記念品をプレゼントします。

①興福寺 国宝特別公開2017

「阿修羅 一天平乾漆群像展」

(3月15日~6月18日、9月15日~11月19日)

※スタンプラリーの実施は4月8日から

②奈良国立博物館 特別展「快慶」(4月8日~6月4日)

③東京国立博物館 興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」

(9月26日~11月26日)

■特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」

4月22日(土) 「快慶を生んだ社会と宗教」

横内 裕人氏(京都府立大学教授)

5月13日(土) 「快慶の生涯と「如法」の仏像」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

5月27日(土) 「快慶作品に関する二、三の問題」

岩田 茂樹(当館学芸部首席研究員)

【時 間】 各回とも13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

*聴講無料(入場には入場整理券が必要です)

*当日12:00から当館講堂前にて入場整理券(お一人様につき一枚)を配布します。配布は講座開始30分後で終了します。

*入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

◆新制度「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」販売開始のお知らせ

平成29年4月1日(土)より、当館を今まで以上に楽しみたいだけける新制度「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」の販売を開始いたします。

詳しい情報は、当館ホームページをご覧くださいか、当館観覧券売場又は総務課企画推進係(TEL:0742-22-4450 ※祝日を除く月曜日~金曜日の午前9時から午後5時まで)へお問い合わせください。



◆奈良国立博物館賛助会

平成29年3月31日現在、一般会員(個人)50名、一般会員(団体)15名、特別会員4団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。

[一般会員(個人)]山本 啓介 様(平成29年1月ご入会)

◆キャンパスメンバーズ

平成29年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学学芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学部 (以上、五十音順)

「地獄・極楽と浄土信仰の美術」

奈良国立博物館では、この夏に1000年忌特別展「源信地獄・極楽への扉」を開催します。これに関連して今回の夏季講座では、源信が著した『往生要集』に説かれる地獄・極楽の世界をより深く理解するために、インドから日本中世に至る浄土信仰の歴史の変遷、地獄・極楽図を中心とする浄土教美術の諸相について、様々な研究分野の第一線で活躍の先生方をお招きし、ご講演をいただきます。

- 【開催日】 8月23日(水)～25日(金)
- 【主催】 奈良国立博物館
- 【会場】 奈良県文化会館 国際ホール
(近鉄奈良駅から徒歩約5分)
- 【受講料】 3,500円(会場費、テキスト代などを含む)
- 【定員】 600名
- 【応募方法】 往復はがきによる郵送に限ります。

- * 往信用はがきに「夏季講座参加希望」と書き、
[氏名(ふりがな)・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を明記してください。
- * 返信用はがきには宛名・住所を記入してください。
- * はがき1枚につき1名のみのお申し込みとなり、2枚目以降は無効となります。
- * 受付期間: 5月15日(月)～6月5日(月) 必着
- * 受付開始日以前に到着したはがきについては無効とさせていただきます。
- * 応募多数の場合、抽選で決定とさせていただきます。
- * 6月16日(金)までに返信用はがきにて受入の可否及び受講料の振込口座をお知らせいたします。
- * お振込が完了した方のみ受講証をお送りいたします。

【申込先】 〒630-8213 奈良市登大路町50
奈良国立博物館 学芸部教育室

*スケジュール等の詳細は、チラシや当館ホームページにてお知らせいたします。

◆特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」にて6月4日まで展示

(当館学芸部主任研究員 山口隆介)

本人が思い描いた仏の理想像というにふさわしい。

肉身のまるみや動勢に呼応する衣のゆらめきが見事に表現される。日

量感を減じて端整さが加味され、美しく整えられた衣文線によって

こされた。

し、貞慶を導師として供養がなされ、承元二年(一一〇八)に截金がほと

快慶が生涯に数多く手がけた像高三尺(約九〇cm)前後の来迎印を結ぶ阿弥陀如来立像、いわゆる「三尺阿弥陀」の代表作。建仁三年に造立

重要文化財
阿弥陀如来立像

快慶作
像高九八・七cm
鎌倉時代 建仁三年(一一〇三)
奈良 東大寺

〔表紙写真解説〕

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■4月16日(日)

「文化財修理の現場から

～津波による被災紙資料を中心として～

大江 克己(当館学芸部研究員)

地震や津波などの災害は人々に多くの被害を与えます。文化財も同様で、被災した文化財には被害状況にあわせた修理処置が必要です。今回は、津波により被災した紙資料の修理についてお話しをします。

■5月21日(日) 「星曼荼羅の源流をめぐって」

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

人の運命を司るとされる夜空の星々に対する信仰は、星曼荼羅(北斗曼荼羅)と呼ばれる特殊な密教画像を生み出しました。その図像上の源泉を、中国の星宿神図像の中を探ります。

■6月18日(日) 「奈良時代の福祉制度」

野尻 忠(当館学芸部企画室長)

奈良時代には、律令法に基づく様々な福祉制度がありました。障害者への税の減免、高齢者や重度障害者を介護する家族への減税措置、稲の不作時における税の免除、災害時の緊急食料支給など。これらについて、制度と実態の両面から概観します。

■7月16日(日) 「春日野の星」

清水 健(当館学芸部工芸考古室長)

星占いでおなじみの十二星座は、実は日本の古美術の中にも時折顔を出します。今回は当館の所蔵する春日龍珠箱に表された十二星座(宮)について、その信仰や図像に迫ります。

■8月20日(日) 「道宣と元照～その肖像画制作について～」

伊藤 久美(当館学芸部研究員)

中国の律宗の一派、南山宗を開いた道宣(596～667)と、それを復興した元照(1048～1116)。鎌倉時代以降、この二人の肖像画が奈良を中心にいくつも作られました。その制作背景や絵の特徴を紹介します。

■9月17日(日) 「中国河南省の石窟寺院を訪ねて」

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

中国河南省には、洛陽の龍門石窟をはじめとして、中国仏教美術史上重要な石窟寺院があります。今回は河南省にある石窟の仏像から、北魏6世紀の名品を中心に紹介していきます。

【時間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 194名(先着順)

*聴講無料(入場には入場整理券が必要です)

*当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お一人様につき一枚)を配付します。配布は講座開始30分後で終了します。

展示品の
みどころ

卣
卣



青銅製
高 30.8cm
中国・商(殷)末期～西周初期
(紀元前11～前10世紀)
当館(坂本コレクション)

「国立博物館では青銅器にどんなお手入れをしているのか?」と一般の方からお問い合わせを頂く。青銅器の愛玩者は意外に多い。モノの状態にもよるが、「当館では何もしていません」と正直にこたえている。一般的には湿度が低く、寒暖差の少ない環境に置くのが理想。多少の錆は3千年の時が作った風格であり、油を塗ったりタワシで磨いたりしては青銅器が泣く。ドンと構えて、その重厚な造形と不思議な文様を楽しみたい。

写真は把手付きの酒壺、卣である。黄河文明で有名な殷墟の時代、今からおよそ3千年前の遺品である。酒池肉林の贅沢で知られる暴君紂王は殷王朝の最後の王で、本器はまさにその頃の品と言えば分かり易いか。把手の付け根には鹿や牛、山羊などの顔を貼り付けるのがお約束。だがメインは胴部の文様で、鳳凰のモチーフであれば鳳凰紋卣、本品のような横長の小龍は夔龍紋卣と呼ばれる。古代中国では神や祖先を祭るための酒器が発達する。本器もその一つで、霊獣の紋様に守られた神聖な酒壺である。シャープな蓋の縁、豊かに膨らむ胴、重厚な中にどこか垢抜けた造形に心惹かれる。殷の都のあった河南省で作られたものか。まあ、細かなことは措いて、ありのままに置かれた姿かたちを見て欲しい。

吉澤 悟 (当館学芸部列品室長)

◆青銅器館名品展「中国古代青銅器(坂本コレクション)」にて展示

梵天立像



重要文化財
頭部：脱活乾漆造 彩色
奈良時代(8世紀)
体部：木造 彩色
鎌倉時代
正応2年(1289)
像高 205.0cm
奈良 秋篠寺

頭部のみが奈良時代(8世紀)に造られた脱活乾漆造の像で、体部は木造である。顔を含め、彩色が鎌倉時代の修理のものであるため、頭部と体部の時代や素材の違いの見分けが付きにくい。顔や頭髪には奈良時代の乾漆像らしい柔らかい表現が見られる。像内に修理銘があり、体部は正応2年(1289)に補われたことがわかる。秋篠寺には同じ年に体部を補われた救脱菩薩立像があり、その像内に「院湛」という仏師の名が記される。この仏師銘から、これらの秋篠寺の仏像は、京都で活躍していた院派仏師によって修理されたと考えられ、院派仏師の奈良での事績を物語る遺品といえる。

本像は、今年の7月からイタリア・ローマのクイリナーレ宮美術館において開催された「日本仏像展」に出展された。今年3月28日からの展示が帰国後初めての公開となる。鎌倉時代の古い彩色が多く残る像のため、長期間の陳列はかなわない。この機会に是非ご覧いただきたい。

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

◆なら仏像館名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(4月～6月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時
・金・土曜日は、特別展「快慶」は午後7時、
名品展は午後8時まで開館
※入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 特別展 快慶

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人	1500円	1000円	500円
団体	1300円	800円	300円

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は、当日券を400円でお求めいただけます。

■休館日／毎週月曜日、ただし5月1日(月)は開館

★無料観覧日(名品展のみ)／
5月5日(こどもの日)、5月18日(国際博物館の日)

■観覧料金 名品展

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額になります。
※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもといっしょ割引)。



●バス停

[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。